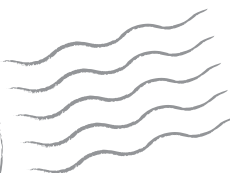


# わおん 通信



2024  
春号  
vol.52



特集

サーキュラーエコノミーを学ぶ

3Rの“その先”を目指すために



## CONTENTS

P2 — P3

さらなる気候変動対策に向けて  
リアル『もったいないキッチン』料理教室を開催  
輝かしい環境活動を称えて

P4 — P5

サーキュラーエコノミーを学ぶ  
3Rの“その先”を目指すために

P6 県情報

令和6年度より課名が『脱炭素政策課』に変わります！  
脱炭素の出前授業を行いました！

P7 なるほど ザ・ワード

推進員ノブくんのああしたら、こうなった⑧

P8 INFORMATION



2050年  
カーボンニュートラルわかやま

# さらなる気候変動 対策に向けて

2024年1月20日  
推進員セミナー開催  
T-LABO@和歌山市

[和歌山県センター]



森口真一郎氏

地球温暖化の知識の更新と活動を推進するために毎年恒例の推進員セミナーを和歌山市で開催しました。今回は、気候変動に関する現状の共有と、具体的な取組に向けた



推進員ワークショップ

ワークショップを行いました。この日は、推進員10名を含む計12名が参加しました。まずは、中島敦司センター長から気候変動と脱炭素に関するトピックの紹介

がありました。「なぜカーボンニュートラルに向けた企業経営が必要なのか」という内容を中心にQ&A形式で説明されました。世界的な脱炭素市場の拡大が、新たな取組のチャンスとなっている点や、積極的な情

報収集の必要性についての解説がありました。続いて「家庭の断熱+気候変動」というテーマでトークセッションを行いました。伊藤忠建材株式会社の森口真一郎氏をゲストに迎えて、

史から、環境配慮型の建築に欠かせないエネルギー利用の工夫や断熱対策まで、充実した話し合いになりました。最後は「暮らしの脱炭素デザインワーク」として、参加者全員によるアイデア創出を行いました。「今からこの会場は2030年にタイムスリップした」という設定で「現在、どんな社会が実現されているか」を想像しながらのディスカッションを行いました。さらに「過去の自分たち」にどのようなアドバイスをすれば本当に実現できるかについて話し合いました。参加した推進員は「久しぶりに多くの

情報を得た。また未来実現の想像など普段はやったことがなかったので、頭をたくさん使った。心地よい疲労感があった。」と、充実した表情で話していました。県センターは、これまでの啓発活動に加え、「社会実装」というキーワードを掲げて、推進員のみならずと一緒具体的な取組を企画、サポートして行きます。

## リアル『もったいないキッチン』料理教室を開催

2024年1月27日  
橋本市・隅田地区公民館

[伊都・橋本地球温暖化対策協議会]

一般財団法人和歌山環境保全公社が行っている「和歌山食と暮らしプロジェクト」の「食品ロス削減」に向けた活動の一環で、昨年11月に上映



持ち寄った食材が素敵な料理に

会を開催した映画「もったいないキッチン」に関係して、消費期限が近い食材、消費しきれない食材を持ち寄った料理教室を開催しました。映画を観て賛同いただいた方を中心に、親子を含む11名が参加しました。

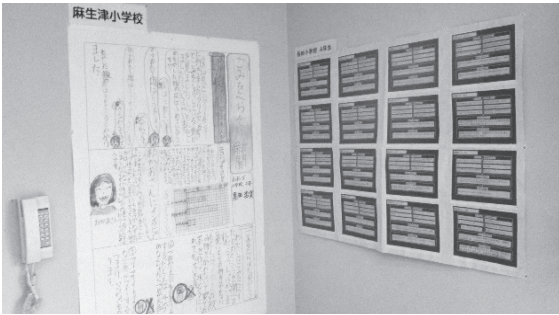
野菜や缶詰、乾パン等キッチンに眠っていた食材で、「鯖缶と野菜の炊き込みご飯」等約10品のメニューが出来上がり、食事をしながら、食品ロス削減のための意見交換を行いました。「家庭菜園でたくさん出来たのでどうしようかと



調理する参加者の様子

思っていた」「残った食材で、こんなにおいしいものができるなんて」「毎月でも料理教室をやってほしい」等たくさん意見が出ました。

世界的な飢餓や廃棄に伴うCO<sub>2</sub>の発生が問題視されている今日、食品ロスの問題を自分の事として考えていただくための活動の輪を今後とも広げていきたいと考えています。(推進員 黒井成男)



ポスター展示の様子

## 輝かしい 環境活動を称えて

2024年2月4日  
第10回こども環境学習発表会  
紀の川市桃山ふれあいコミュニティセンター

【紀の川市地球温暖化対策協議会】

当協議会主催の恒例行事の一つであります「第10回こども環境学習発表会」を実施し

ました。今回は6校の小中学校から、ステージ発表やパネル展示に参加いただきました。紀の海クリーンセンターを見学した調月小学校4年生代表生徒は、パワーポイントを使って施設の仕組み、ごみの分別やリサイクルについて発表されました。安楽川小学校生徒会はふるさと「安楽川」の自然について見直し、自分たちができることを発表されました。続いて荒川中学校2年生代表生徒は「①学校紹介、②古紙回収ボランティア活動、③森林体験」についてたいへん有意義な取組みが紹介されました。ポスター作品展示では、麻生津小学校はクリーンセンターを見学したこともあり「ごみの行方」「ごみの減量」などポスター作品の出版をされました。長田小学校は環境問題における



学習成果発表の様子

取組をフローチャートにまとめた作品を展示されました。また中貴志小学校の2クラスは身の回りの地球環境における課題をSDGsの17のターゲットに沿ってまとめていました。ステージ発表終了後に、本協議会の阪中副代表理事が講師となり環境学習セミナーを実施しました。参加いただいた全員に地球温暖化防止活動の協力をお願いすると共に、参加校の子供たちに、



他の発表を真剣に聞く生徒たちの様子

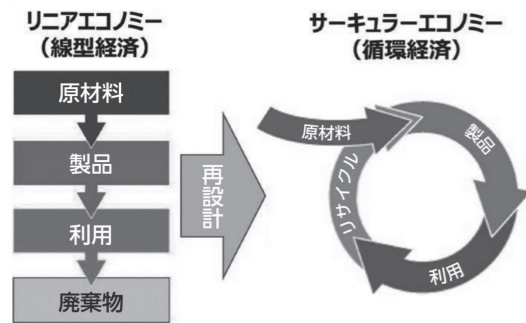
今後更に環境活動に取り組んでいただけるようメッセージを含めた表彰状を手渡ししました。閉会に際して、今回のこども環境学習発表会全体について紀の川市の榎戸教育主事より講評をいただき、参加生徒全員で記念写真を撮りました。なお、ステージ発表、ポスター展示の参加校には協議会より「環境賞」「活動賞」を贈らせていただきました。

# 特集 サークュラーエコノミーを学ぶ 3Rの“その先”を目指すために

「3R=リデュース・リユース・リサイクル」は、すでに私たちの日々の暮らしに浸透している取組です。今回は、さらなる「循環」の取組である「サーキュラーエコノミー」について特集します。

## サーキュラーエコノミーとリニアエコノミー

サーキュラーエコノミー（循環型経済または循環経済）は、企業が経済活動の中で廃棄物を出さずに資源を循環させていく経済システムのことです。これまでの3Rの



※限りある資源の効率的な利用等により世界で約500兆円の経済効果があると言われている成長市場（出典：Accenture Strategy 2015）  
資料：オランダ「A Circular Economy in the Netherlands by 2050 - Government-wide Program for a Circular Economy」（2016）より環境省作成

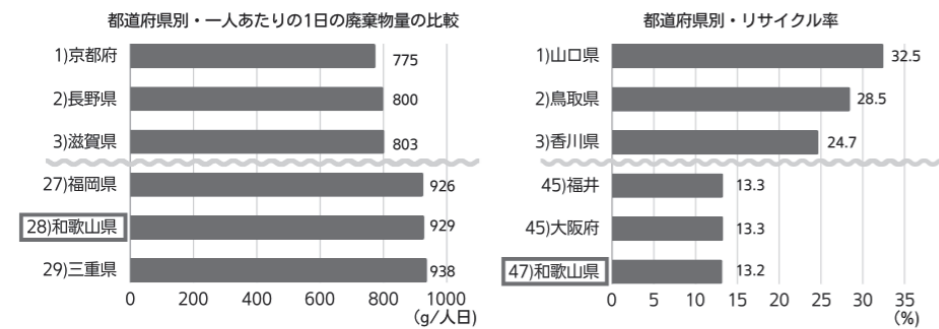
出典：令和3年版環境・循環型社会・生物多様性白書  
([https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/r03/pdf/1\\_2.pdf](https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/r03/pdf/1_2.pdf))

図1：サーキュラーエコノミー

取り組みに加えて、資源を使う量や消費する量を抑えて、上手に活用しながら付加価値をつかっていく経済活動です。これまでの経済活動は、リニアエコノミー（線型経済）と言われていました。自然界から取り出した資源やエネルギーを使って作られたものが、一度きりの使い捨てで消費されることです。そして、環境対策を考えた「循環型社会」に移行し現在に至ります。サーキュラーエコノミーは廃棄される量をゼロにし、限りある資源として有効活用する、環境負荷削減と経済成長の両立を目指す活動です。この新たな経済の動きは、同時に雇用創出にもつながります。

## 国内のリサイクルの現状

環境省廃棄物処理技術情報WEBサイトにある令和3年度調査結果によると、一般廃棄物のごみ総排出量は4,095万トン、1人1日当たりのごみ排出量は890グラムです。和歌山県の一般廃棄物のごみ総排出量は約31万8千トン、1人1日当たりのごみ排出量は929グラムで、全国で28番目に少ない地域です。一方リサイクル率は、13.2%で全国最下位となっています。



環境省廃棄物処理技術情報WEBサイト・令和3年度調査結果をもとに県センター作成  
図2：一般廃棄物の排出及び処理状況等（令和3年度）について

## サーキュラーデザインを考える

サーキュラーエコノミーを考える上で、とても重要なのが「サーキュラーデザイン（循環デザイン）」です。例えば、グルメガイドでも有名なフランスのタイヤメーカー「ミシュラン」の日本人である日本ミシュランタイヤは2024年1月31日、新潟にある新規航空会社「トキエア」との5年間の独占タイヤリース契約締結を発表しました。航空機タイヤは着陸時に受ける負荷がとて大きく、巨大な機体を支え安全に航行するための耐久性が求められます。タイヤは「トレッド」と呼ばれる路面に接する部分が摩耗すると交換されます。このとき毎回新品のタイヤに交換するのではなく、接地する表面部分のゴムを張り替える「リトレッド」という方法によって数回繰り返し使うことが可能です。この場合、長期使用を考慮した耐久性の高いタイヤを導入することで、その後より多くリトレッドが可能になり、結果的にタイヤの購入頻度を減らすことができます。この方式は廃棄量を減らすための環境面のメリットだけでなく、新品の製造に必要な原料、エネルギー、物流といった一連の環境負荷低減にもつながり、経済面での効果も期待できるわけです。



2024年就航開始するトキエアの航空機



ミシュランの航空機用ラジアルタイヤ [MICHELIN Air X®]  
提供：日本ミシュランタイヤ株式会社

環境負荷を最小限にする設計やデザインのことをエコデザインと言います。しかし最終的には廃棄物が発生する考え方のためリニアエコノミーの流れになります。サーキュラーデザインとは、「『廃棄物』という概念をなくすことを目指す取組」で、これまでの考え方とは大きく異なる点です。

## 県内の新たなチャレンジ

和歌山県は、サーキュラーエコノミーの考えをいち早く取り入れ、地域の特性を踏まえた産業創出や広域的な資源循環ネットワークの構築を目指すため、2023年10月に「わかやま資源自律経済ビジョン」をとりまとめました。地域でサーキュラーエコノミーを実現するためには、地域の特性を踏まえた取組であること、また県民一人ひとりが自分事として取り組んでいくことが重要です。このビジョンでは、「一人ひとりがサーキュラーの『わ』の中へ『わ』から自信と愛着ある和歌山を自らデザインする」というキーメッセージを掲げています。図3はビジョンのコンセプトとなるイメージ図で、和歌山の「和」や循環の「輪」などの意味を込めたキーメッセージの『わ』を、木の国と呼ばれるルーツである「樹木」と循環の「輪（サーキュラー）」で表現し、県内の観光地のシンボルや特産品なども描き地域で誇れる豊かさを表現しています。

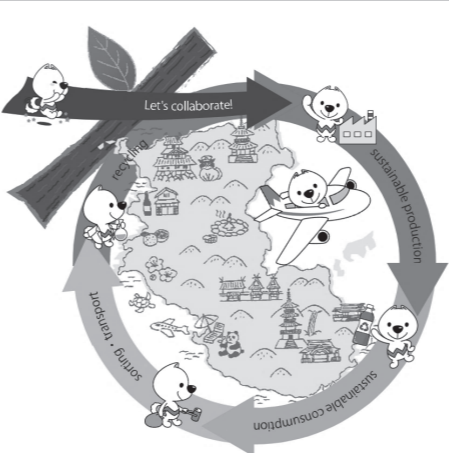


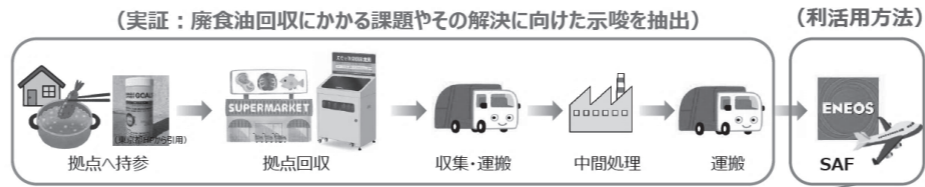
図3：わかやま資源自律経済ビジョンのコンセプトイメージ

（\*カラー版は和歌山県WEBサイトにあります。ぜひご覧ください。  
<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/063100/d00214388.html>）



## てんぷら油が飛行機の燃料になる!?

和歌山県におけるサーキュラーエコノミー実現に向けた取組の第一弾として、令和6年度から家庭用廃食油を回収し資源として利活用する仕組み構築に向けた実証がスタートします。これは、SAF（持続可能な航空燃料[Sustainable Aviation Fuel]）を始めとする次世代エネルギーの原料供給方法の一つとして、現在は大半がごみとなっている家庭用廃食油を回収し活用してゆくものです。



出典：第1回 未利用資源（廃食油）活用に係るワーキンググループ 説明資料より  
[https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/063100/d00215283\\_d/fil/siryu04.pdf](https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/063100/d00215283_d/fil/siryu04.pdf)

図4：天ぷら油の回収から航空機燃料の原料供給までのイメージ

この実証を進めていくには、県民の協力が欠かせません。昨年12月3日に行われた環境イベント「おもしろ環境まつり」では県産業技術政策課、植田油脂株式会社、ENEOS株式会社の3者が共同出展し、廃食油利活用のPRが行われました。ブースには「未来環境供給基地」と書かれた説明看板を掲げて説明したり、使用済みの天ぷら油を配合した石けん作り体験が行われたりと、多くの参加者で賑わいました。この日、回収された廃食油は、24リットル以上となりました。



イベントで回収した廃食油  
約20名が廃食油を持参し、計約24.4リットル（一斗缶2缶弱）の回収量であった



石けん作り体験をする子供たち  
・原料油脂に廃食用油が80%使用されている地球にやさしい材料の石けん作り体験  
・体験者は計81名で、人気ブースとなった

県産業技術政策課は、インスタグラムを開設し、県のサーキュラーエコノミーに関する取組やイベントを発信していますので、ぜひフォロー＆チェックしてみてください。



## マルシェイベントで「循環」を体験

3月10日、和歌山市の本町公園で毎月第二日曜日に開催されているマルシェ「てとこと市」のスポット企画として「わかやま循環計画DAY」というイベントが開催されました。このイベントは、「食」を中心に「暮らし方の工夫」について考えヒントを共有していく「和歌山食と暮らしプロジェクト」という取組の一環です。会場は芝生のある広場の東側一帯にさまざまな出店が軒を連ねました。先ほど紹介した、県産業技術政策課の廃食油石けんづくりをはじめ、まだ賞味期限はあるけれど自宅では消費予定のないものを提供する「フードネーション」コーナー、見た目におしゃれなバッグ型コンポストの展示、おもちゃや子供服の交換会、ランドセルの譲渡会、制服リユースの紹介＆回収BOXの設置、使わなくなったパソコンの回収まで、総勢10種類の出店がありました。また、実際に廃油で走ることができる「天ぷらカー」は、排気口から出るガスがまるで天ぷらを揚げている時のような臭いがするため、訪れた人たちは興味津々の様子でした。



わかやま循環計画DAY会場



廃食油で走る「天ぷらカー」の展示・実演

今回のイベントで工夫していた点は、事前に「マイ食器」を持参する呼びかけでした。さらに当日はイベント会場でもリユース食器のレンタルコーナーを設けて順次貸出を行っていました。この取組を実施するには飲食を提供するお店の方々の協力が欠かせません。今回イベントの趣旨に賛同した店先には「『循環計画DAY』に賛同しています マイ食器OK!」の文字が掲げられ、会場全体でごみゼロを目指した有意義な1日となりました。

## 「ごみ」から「資源」へ 私たちに求められること

今回サーキュラーエコノミーについて特集しました。企業が「廃棄物を出さない工夫」を積極的に考えて実践していく循環システムですが、私たち消費者も同じように循環型経済の考えを取り入れることができます。動かなくなってしまったパソコンや、サイズが小さく着られなくなった服など、暮らしの中で、やむなく手放すときには「これはどう分解されるのだろう、どこで活用されるのだろう」と考えてみることで、きっとご自身の消費のあり方が変わってくるでしょう。もしかしたら、あなたの考えたアイデアが素敵な循環のしくみに繋がるかもしれません。

和歌山食と暮らしプロジェクト LINE公式サイト  
「食」を中心に暮らしを考えるヒントを共有しています。ぜひフォロー＆チェックしてみてください。

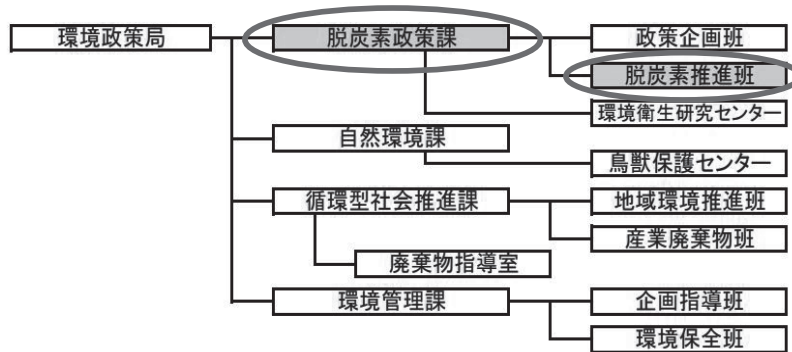


- ◆図1 出典：令和3年版環境・循環型社会・生物多様性白書（環境省）  
[https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/r03/pdf/1\\_2.pdf](https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/r03/pdf/1_2.pdf)
- ◆図2 出典：一般廃棄物の排出及び処理状況等（令和3年度）について（環境省）（データ）  
[https://www.env.go.jp/press/press\\_01383.html](https://www.env.go.jp/press/press_01383.html)
- ◆記事 出典：ミシュラン、新潟空港を拠点に就航開始する「トキエア」と5年間の独占タイヤリース契約を締結（日本ミシュランタイヤ株式会社）  
<https://news.michelin.co.jp/articles/20240131-michelin-tokair-2024-release>
- ◆図3 出典：「わかやま資源自律経済ビジョン」をとりまとめました（県産業技術政策課）  
<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/063100/d00214388.html>
- ◆写真 <イベントで回収した食用油> <石けん作り体験をする子供たち> 出典：第2回 未利用資源（廃食油）活用に係るワーキンググループ事務局説明資料（県産業技術政策課）  
[https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/063100/d00215283\\_d/fil/siryu02.pdf](https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/063100/d00215283_d/fil/siryu02.pdf)

# 令和6年度より課名が『脱炭素政策課』に変わります！

県内の脱炭素化の取組を推進するため、「環境生活総務課」を『脱炭素政策課』に名称変更し、新たに『脱炭素推進班』を設置します。

- 環境生活総務課を脱炭素政策課に再編(環境生活部)  
2050年カーボンニュートラル達成に向けて脱炭素政策を推進  
脱炭素政策課 ・ 政策企画班 脱炭素推進班



## 脱炭素の出前授業を行いました！

県環境生活総務課では、脱炭素について子どもたちへの理解を促し、そこから県内全体へ脱炭素の取組を広める目的で、出前授業を開始しました。その記念すべき初回の授業は、2月19日(月)に和歌山市立中之島小学校で行いました。県環境生活総務課の職員が講師となり、「きいちゃんと学ぼう！地球温暖化を防ぐために私たちができること～脱炭素に向けて～」というタイトルで6年生に実施しました。

「脱炭素」という言葉は多くの小学生になじみがありません。そこで、まずは「地球温暖化」について、そのしくみや現状を説明するところから、授業を始めました。次に温室効果ガスの中でも「二酸化炭素」に注目して、その量を減らすために自分たちにどんなことができるのか、動画を視聴しながら考えました。最終的には「日常生活で出る二酸化炭素をゼロにはできないが、植物が二酸化炭素を吸収するしくみを使って、『実質的に』ゼロにはできる。」と気付かせることで、「脱炭素」の理解につなげました。講師が植物について話す前に児童から「植物は、二酸化炭素を吸って酸素を出すから、植物をたくさん植えることで、(地球上の)二酸化炭素の量は減る」という発言もあり、小学生の発想力に感心する場面もありました。

授業を受けた児童からは、「(地球上から)二酸化炭素を無くすことはできないけど、減らすことはできると知った。」「電気を使っているときに、二酸化炭素が出ていることを初めて知った。」「車は燃料を燃やしているから、CO<sub>2</sub>が出るということが印象に残った。」「『カーボンニュートラル』という言葉だけは知っていたが、授業を受けて(二酸化炭素を)実質的にゼロにするということが分かった」などの感想がありました。



写真：きいちゃんと一緒に授業を受ける様子

令和5年度は、岩出市立中央小学校、岩出市立山崎北小学校でも実施させていただきました。興味のある学校は、環境生活総務課(073-441-2674)まで、お問い合わせください。(令和6年度より「環境生活総務課」は、『脱炭素政策課』名称変更します。)



# なるほどザ・ワード

\*地球温暖化をめぐる報道などで、いま焦点となっている言葉を簡単に解説します


## 「デカボスコア」って何？

脱炭素の動きが世界で加速し、日本でもようやく動き出している中での新たな取組キーワードとして、「デカボスコア」というものがあります。「デカボ」は脱炭素を意味する「デカーボナイゼーション (Decarbonization)」の略で、従来の商品やサービスと比べたCO<sub>2</sub>削減率の指標です。例えば、「デカボスコア46% off」というと、従来品よりも排出CO<sub>2</sub>相当量が46%少ないことを示し、従来のものと比較して環境に対する負荷がどのくらい軽減されるのかが分かるように表されています。このように、暮らしに欠かせない消費行動に、これまでの「貨幣価値主体」から「環境負荷」という基準が加わることで、選択行動が変わってきます。2023年6月現在、公式サイトによると、すでに100社以上の企業が導入しています。例えば、UCC上島珈琲では環境月間にタンブラーの利用促進キャンペーンを行っていて、デカボスコアに基づいた追加ポイントを付与することで、従来の利用率の4.5倍になりました。社会貢献を積極的に取り入れている紙製品のコアレックス信栄株式会社では、自社が開発した特殊技術で作られたトイレトペーパーをデカボスコアで評価し販売したところ当初想定の2倍の売上を達成しました。このようにさまざまな企業努力は始まっていて、私たち消費者は各製品、サービスを新し

い指標によって選ぶことが可能になりました。ここで考えたいことは、「毎日の暮らしの中でできる行動」の一つに「かしこい消費」があるということです。環境負荷の少ない製品を選ぶことが、デカボスコアの取組に賛同する企業を増やす原動力となります。さらに詳しい内容、デカボスコアを導入されている製品を知りたい方は、下記サイトをご覧ください。

商品を選ぶ新しい基準のひとつに

# デカボスコア



商品やサービスの排出CO<sub>2</sub>相当量の「削減率」を「デカボスコア」として可視化しています。

デカボスコア 紹介サイト  
<https://decarbo.earth-hacks.jp/>



## ああしたら、こうなった ⑧

今回は、農家である私が始めているベランダコンポストについて紹介します。3年間やってみて、始める前後でどのように変わったか、また他の方からよく聞かれることについてお話します。

### 【コンポストのつくりかた】

私は20リットルの素焼きの植木鉢を使っています。中にいれる「基材」は、土のような見た目の「ピートモス」というものを使っています。これは苔などが腐食して堆積してできた泥炭（でいたん）を乾燥させた天然のものでフミン酸という強い酸性を含んでいます。主に園芸などで土壌改良の目的で使われているものです。これに生ごみを投入し、かき混ぜて中に入れると、数日経たないうちに形が分からなくなります。

### 【臭いについて】

一番心配される質問ですが、森の腐葉土のような感じでコンポストに近づくと分かる程度です。なので、ご近所への迷惑にはなりません。

### 【処分先について】

生ごみを入れる量にもよりますが、家族二人分だと一気に増えることはありません。微生物が分解し嵩が減るとはいえ、徐々にコンポストの中身は増えて行きます。だいたい半年に1回の間隔で取り出しています。私の場合、取り出した分解物は飼っている鶏小屋に撒いています。

中に入っている虫や未分解のものは、鶏の餌になるので都合がいいです。もし、庭や花壇がある方は土と混ぜるとうまく処分できます。また、自治体によっては回収してくれるところもあるようです。調べて相談してみてもいいでしょうか。

### 【始めてからの変化】

一般ごみで出す生ごみの汁や臭いがなくなり、台所まわりに停滞する臭いもなくなりました。

しかし、コンポストにコバエやミズアブが湧きました。そのせいもあってか鳥がよくベランダに来るようになりました。これは上からフタをして解決しました。

### 【入れられるごみの種類について】

みかんの皮やスイカの皮、ピーナッツの殻など、個体が大きいもの、硬いもの、水気を多く含んでいるものは、分解に時間がかかります。また、コンポストの中身がすぐにいっぱいになってしまうので工夫が必要です。捨てにくい揚げ油などはそのまま入れていますが分解されています。

みなさんが想像するよりも手軽に始められるコンポスト、ぜひチャレンジしてみてください。



植木鉢をコンポストに利用

## イベント情報

## 「令和6年度脱炭素経営モデル推進支援事業オンライン説明会」を開催します

日時：令和6年3月27日(水) 13時30分～15時00分(予定)

開催方法：オンライン方式 (Zoomを使用) ※申込者には、前日までにURLを電子メールにてお送りします。

受講対象者：県内に事業所等を有する中小企業者等

内容(1) 国のカーボンニュートラル支援策について

経済産業省 近畿経済産業局 資源エネルギー環境部 カーボンニュートラル推進室 総括係長 風早 里佳子 氏

(2) 令和5年度脱炭素経営モデル推進支援事業(相談窓口・補助金)の実績と令和6年度の事業実施について

NPO法人わかやま環境ネットワーク(和歌山県地球温暖化防止活動推進センター) 事務局長 白井 達也 氏

(3) 補助金活用企業との対談

三和建設株式会社 取締役 大前 智裕 氏

(聞き手：NPO法人わかやま環境ネットワーク 白井 達也 氏)

お問合せ：和歌山県 商工観光労働部 企業政策局 産業技術政策課

電話：073-441-2354 FAX:073-432-0180

メール：e0631001@pref.wakayama.lg.jp

申込みフォームにアクセスし、  
お申し込みください。

## 里山整備活動への助成制度・令和6年度募集 ～「森林・山村多面的機能発揮対策交付金」の募集をします～

住民のみなさんがグループで森林資源の活用や里山環境の改善を目的に活動することにより、よりよい地域づくりを支援する林野庁の助成制度です。

実施主体：木の国協議会助成期間：令和6年度(1年間)

助成の対象となる活動：里山・竹林の整備、山菜・きのこ・紀州備長炭の原木、木質バイオマスなど森林の様々な資源の活用のための活動で、3年以上継続して実施する活動

申請書の提出のメ切：第1回目 4月22日(月) 採択決定 6月下旬

第2回目 6月3日(月) 採択決定 7月下旬

詳細、申し込み書類等の様式については、ホームページに掲載 公式WEBサイト：<https://kinokunik.net>

お問合せ：木の国協議会(〒641-0014 和歌山市毛見 996-2 NPO法人わかやま環境ネットワーク内 担当：大野)

電話：073-499-4762 [平日10～16時]

## わかやまごみゼロ活動

団体、事業者の自主的な清掃活動等を「わかやまごみゼロ活動」として認定し、その取組を県が広く県民に周知するなどの応援を行うことにより、ごみの散乱の防止についての県民意識を高揚するとともに、自主的な清掃活動の取組拡大を促進することを目的としています。

支援の内容 ・認定した活動を県が作成する広報媒体等で情報発信します  
・環境学習教材や清掃資機材等の物品の提供・貸出を行います

参考：わかやまごみゼロ活動応援制度実施要領

郵送、FAX、メールのいずれかにて、申請書のほか必要な書類を提出してください。

・和歌山県 環境生活部 環境政策局 循環型社会推進課

〒640-8585 和歌山市小松原通1丁目1番地

FAX073-441-2685

メール e0318001@pref.wakayama.lg.jp



## こども環境相談室

こども環境相談室では、環境に関する相談に、こども環境相談員がお答えします。

こども本人だけでなく、こどもたちの相談に対する学校の先生や保護者のみなさまからの相談にも応じます。

## ◆相談する方法◆

メール、手紙、FAX(03-5829-6190)、相談しやすい方法でこども環境相談室までご連絡ください

連絡先

〒101-0032 東京都千代田区岩本町1丁目10-5 TMMビル5F

(公財)日本環境協会 教育事業部 こども環境相談室 担当：大西、善生(ぜんしょう)

TEL：03-5829-6359 FAX：03-5829-6190

Email：ecobox@jeas.or.jp



## 県センター通信

今回のわおん通信に掲載しました1月20日の推進員セミナーで、中島センター長から「企業は脱炭素経営についてアンテナを張って情報収集に努めましょう」というコメントがありました。これからは、企業だけでなく、私たち推進員一人ひとりも同じように関心をもちながら気候変動についての情報にアンテナを張ることがとても重要です。とはいえ、たくさんの用語や名称が目まぐるしく生まれてくる状況をつぶさに追いかけていくのは、なかなか大変です。県センターでは2024年の活動のひとつとして、用語や名称について楽しみながら学べる機会を計画しています。現実を知って悲観的になるのではなく、何をどうすれば暮らしやすい社会と持続可能な地球の姿を次の世代に残せるかを考え、対話し、実装していくための機会を増やして行きます。ぜひ一緒に活動しましょう。